



今井小だより

第7号
令和3年
9月30日
青梅市立今井小学校



今井小HP

令和4年度に向けて考えていること

校長 神尾 健彦

緊急事態宣言も10月1日から解除されるとのことです。かといって全くノーガードというわけにはいきません。引き続き感染拡大防止のための方策をとりながら、価値のある教育活動を展開していきます。ご家庭では、健康観察、マスクの着用、体調不良の時は念のため欠席するなど今後ご協力よろしく願います。

さて、今井小学校を子供にとってよりよい学びの場、成長の場としていくために来年度からの方向性についてお知らせをします。その際のキーワードの一つとして「非認知能力」というものを学校の中で今よりも伸ばす環境づくりを進めていこうと考えています。2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマンさんが1960年代から40年以上にわたって実施された調査研究の結果から幼少期に「非認知能力」を育まれた子供は後のより良い人生の実現につながるというものです。(詳しくは「ペリー就学前計画」について調べてみてください)

「非認知能力」とはいわゆるテストの点数や偏差値で表される「点数化できる学力(認知能力)」ではなく、右の表にあるような能力です。それ

非認知能力の名前	具体的な非認知能力
自己認識	やり抜く力、子供が自分の能力を信じる。自己肯定感がある
動機付け・意欲	学習志向、やる気がある、集中力
持続力・忍耐力	あきらめない、粘り強い
自制心	自分のルールを守る。自制心がある、勤勉
メタ認識	目標を決めて計画を立て、問題を把握・解決しながら前に進められる。客観性
社会的能力	リーダーシップ、他の人と対話・協調性
回復力・対応力	楽天的、失敗しても悩まない、失敗から学べる
クリエイティビティ	創造力・直感力がある、工夫できる

では、非認知能力はどのようにすれば、身に付けることができるのでしょうか。「粘り強くがんばりなさい。」「あきらめずに最後までやりなさい。」「集中しなさい。」と子供に強制したり叱咤したりしてもさほど効果はないといわれています。非認知能力を伸ばすためには「環境」や「関わり方」が重要であるといわれています。非認知能力が伸びる環境や関わり方の例として以下のようなものがあります。

- 1 子供が安心できる環境。→温かい、正面から向き合ったやり取り。
- 2 子供が自分から興味をもって取り組んでいることをそっとサポートする。→子供の成功を信じる。
- 3 子供が努力している姿に共感する。→思いやりと敬意をこめて関心を向ける。
- 4 子供が自分の力でやり遂げられると信じられる適切な課題がある。→ポジティブなものの見方。

このような「非認知的能力」を今井小学校で伸ばしていくための方向性として以下のことをこれから具体化しながら準備をしていきます。

- 温かい人間関係を作る教育環境の整備
- 非認知能力の育成を意図した特別活動のカリキュラム
- 達成感を味わえる単元を通した学習活動の充実
- 児童が計画し実行する家庭学習